

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 3 区分
 【発行日】平成 23 年 9 月 29 日 (2011.9.29)

【公開番号】特開 2009-93631 (P2009-93631A)
 【公開日】平成 21 年 4 月 30 日 (2009.4.30)
 【年通号数】公開・登録公報 2009-017
 【出願番号】特願 2008-226380 (P2008-226380)
 【国際特許分類】

G 0 6 F 17/21 (2006.01)

【 F I 】

G 0 6 F 17/21 5 7 0 G

G 0 6 F 17/21 5 0 1 T

【手続補正書】

【提出日】平成 23 年 8 月 15 日 (2011.8.15)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

構造化文書を符号化する文書符号化装置であって、
 構造化文書中に記されている各属性値を検出する検出手段と、
 前記検出手段が検出した各属性値の小数点以下の桁数を取得する取得手段と、
 前記取得手段が取得したそれぞれの桁数のうち最大桁数に応じて前記各属性値の小数点位置を移動させることで、前記検出手段が検出した各属性値を、整数値を表す数値文字列に変換する変換手段と、
 前記変換手段による各数値文字列と、前記最大桁数と、を符号化する符号化手段とを備えることを特徴とする文書符号化装置。

【請求項 2】

前記変換手段は、前記最大桁数を C としたときに、前記検出手段が検出した各属性値を 10^C 倍した整数値を表す数値文字列を生成することを特徴とする請求項 1 に記載の文書符号化装置。

【請求項 3】

前記符号化手段は、
 前記変換手段による変換結果としての数値文字列のうち、符号化結果のデータサイズとして予め設定したサイズに基づいて決まる数値範囲内に収まっていない数値を示す数値文字列については、その変換元の数値文字列を IEEE 754 形式で符号化することを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の文書符号化装置。

【請求項 4】

構造化文書を符号化する文書符号化装置であって、
 構造化文書中に記されている各属性値を検出する検出手段と、
 前記検出手段による前記各属性値の検出順において、先頭から順に属性値間の差分値を計算する計算手段と、
 前記計算手段が計算した各差分値の小数点以下の桁数を取得する取得手段と、
 前記取得手段が取得したそれぞれの桁数のうち最大桁数に応じて前記各差分値の小数点位置を移動させることで、前記計算手段が計算した各差分値を、整数値を表す数値文字列に変換する変換手段と、

前記変換手段による各数値文字列、前記検出手段による前記各属性値の検出順において先頭の属性値、前記最大桁数、を符号化する符号化手段と

を備え、

前記符号化手段は、前記先頭の属性値については、IEEE754形式で符号化することを特徴とする文書符号化装置。

【請求項5】

前記符号化手段は、バイナリXMLにより符号化を行うことを特徴とする請求項1乃至4の何れか1項に記載の文書符号化装置。

【請求項6】

前記構造化文書は、SVGであることを特徴とする請求項1乃至5の何れか1項に記載の文書符号化装置。

【請求項7】

構造化文書を符号化する文書符号化装置が行う文書符号化方法であって、

前記文書符号化装置の検出手段が、構造化文書中に記されている各属性値を検出する検出工程と、

前記文書符号化装置の取得手段が、前記検出工程で検出した各属性値の小数点以下の桁数を取得する取得工程と、

前記文書符号化装置の変換手段が、前記取得工程で取得したそれぞれの桁数のうち最大桁数に応じて前記各属性値の小数点位置を移動させることで、前記検出工程で検出した各属性値を、整数値を表す数値文字列に変換する変換工程と、

前記文書符号化装置の符号化手段が、前記変換工程による各数値文字列と、前記最大桁数と、を符号化する符号化工程と

を備えることを特徴とする文書符号化方法。

【請求項8】

構造化文書を符号化する文書符号化装置が行う文書符号化方法であって、

前記文書符号化装置の検出手段が、構造化文書中に記されている各属性値を検出する検出工程と、

前記文書符号化装置の計算手段が、前記検出工程による前記各属性値の検出順において、先頭から順に属性値間の差分値を計算する計算工程と、

前記文書符号化装置の取得手段が、前記計算工程で計算した各差分値の小数点以下の桁数を取得する取得工程と、

前記文書符号化装置の変換手段が、前記取得工程で取得したそれぞれの桁数のうち最大桁数に応じて前記各差分値の小数点位置を移動させることで、前記計算工程で計算した各差分値を、整数値を表す数値文字列に変換する変換工程と、

前記文書符号化装置の符号化手段が、前記変換工程による各数値文字列、前記検出工程による前記各属性値の検出順において先頭の属性値、前記最大桁数、を符号化する符号化工程と

を備え、

前記符号化工程では、前記先頭の属性値については、IEEE754形式で符号化することを特徴とする文書符号化方法。

【請求項9】

コンピュータを、請求項1乃至6の何れか1項に記載の文書符号化装置の各手段として機能させるためのコンピュータプログラム。

【請求項10】

請求項9に記載のコンピュータプログラムを格納した、コンピュータ読み取り可能な記憶媒体。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

即ち、構造化文書を符号化する文書符号化装置であって、
構造化文書中に記されている各属性値を検出する検出手段と、
前記検出手段が検出した各属性値の小数点以下の桁数を取得する取得手段と、
前記取得手段が取得したそれぞれの桁数のうち最大桁数に応じて前記各属性値の小数点位置を移動させることで、前記検出手段が検出した各属性値を、整数値を表す数値文字列に変換する変換手段と、
前記変換手段による各数値文字列と、前記最大桁数と、を符号化する符号化手段とを備えることを特徴とする。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】削除

【補正の内容】